

編集後記

21号をお送りします。

本号の執筆者、松田孝一氏は連携研究者、渡辺健哉氏は分担研究者として、この科研に参加していただいている方々です。松田氏の論考はこの夏のモンゴル国調査での成果の紹介であり、渡辺氏のものとは8月に開かれたシンポジウムの報告で、いずれも近々の成果の紹介となっています。本誌は、一般の「学術誌」と比べての身の軽さが身上ですが、今回の2篇については、その点が発揮できたのではないかと思います。現地調査も、写真の保存と利用も、本科研申請の、というより、我々研究グループの当初からの課題で、その一部とはいえ、このように形にできたことを喜んでおります。また、森田の新刊拓影目録も久しぶりに掲載できました。石刻文献が大型化し、科研という補助金があっても、購入し身近に置くことの困難はさらに増加しています。ご活用願えればさいわいです。あわせて、所蔵される機関の閲覧へのご配慮に、お礼申し上げます。なお、本科研の研究代表者は村岡さんですが、編集は森田憲司がおこなっております。本誌についてのご連絡がありますときは、森田までお願いいたします。

(もりた けんじ)

13、14世紀東アジア史料通信 第21号

2013年10月発行

編集 森田憲司

発行者

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B

「河南・山西地区の多民族融合社会史の研究 - 石刻史料による中国地域社会史解明の試み」研究グループ

(代表 村岡倫)

連絡先

〒631-8502 奈良市山陵町 1500

奈良大学文学部史学科 森田研究室